

サイクル25到来

DX への、その長き道のり

JM1LZT 富山俊一

私が 30 年間の「無線冬眠」をしていた間、太陽黒点は何度も増減を繰り返し、サイクル 22,23,24 と、3 つも「HF ハイバンド DX の旬」が過ぎていきました。復帰直後(2017 年の暮れ)は、サイクル 24 のボトム近くで、21,28MHz はもちろん(?)14MHz でさえ、まともな DX の信号はあまり聞こえてきませんでした。確かに 7MHz は CW ならば、時々我が家のベランダ GP にも何らかの海外からの信号が聞こえてはいましたが、「聞こえるからといって、出来るとは限らない」のは 30 年前と同じこと…焦りました。以前も TWO-FORTY 誌に書かせていただきましたが、「復帰したら HF で DX バリバリ」のイメージでいたので、理屈では分かっている、精神的にはかなりのダメージが^^;

ただ、テクノロジーの進歩というのは恐ろしいもので、なんだか PC と無線機を繋いどけば、弱い信号でも「ほぼ全自動で」交信が出来ることが判明。そう、JT65 だの FT8 だの(最近だと FT4 なんてのまで)といったデジタルモードの台頭です。完全浦島太郎状態だった私ですが、ネットや本を調べまくり、詳しい方からアドバイスもいただきながら、どうにかこうにか使えるようになったのは 2020 年になってからです。実はもっと早く始めることも可能だったかもしれないわけですが、とにかく「昔の感覚」のままの無線観の私は、どお~しても「PC が勝手にやってくれる QSO」というのが受け入れ難かったということです。冷静に考えてみれば、絵に描いたようなアパマンハムで、大きなアンテナも大パワーも無い身としては、拒絶するどころか、最もやってみるべきモードだということを理解するのに 2 年ぐらいかかっちゃいました f_^;

240 諸兄の大いなる影響の下、「移動して国内コンテスト(50MHzの CW)」に「新たな無線生活」の活路を見出していたのも、デジタルモード導入が遅れた要因かもしれません。その昔、若き日の私は、日がな HF の DX に明け暮れ、50MHz 「なんか」見向きもしてませんでした。DXCC は 260~70 ぐらいまではいったたでしょうか。WAZ もなんとかなってました。しかし、時は流れ社会も環境も己が立場と年齢も変わり、私の価値観も(たぶん)変わりました。かつてある種の「DXCC 至上主義」に凝り固まっていた(かもしれない)私ですが、30 年という「冷却期間」を置き、ようやく「無線の多様性」を素直に受け入れられるようになったのかもしれません。「DX は楽しい。でも他にもいっぱい楽しみ方はある」と、今なら自信を持って(やっと)言えそうです。無線の世界で今一番興味あるのは、明らかに国内コンテスト。週末山に登りアンテナを泣きながら設営し、寝不足と疲労でボロボロの老体に鞭打って撤収作業… 楽しいんだからしょうがありませんが、よお〜く思い出してみると、当初は「次のサイクルまでのツナギ」として始めたことだったかもしれません。しかあ〜し、根が凝り性(というか馬鹿)なもので、今や完全に国内コンテストは本気モード。「絶対王者」がいらっしやるのを承知の上で、「いつかは一等賞」を夢見ながら 50MHz の CW にエントリーし続けています。

とは言え、サイクル 25 が始まり、以前より自宅で HF をワッチする時間が前より多少増えたかもしれません。ガラパゴスのペディションに、ちょっと熱くなったりしたのも事実です。ブーベのこともずう〜と気になってます。で、同時に、参加した国内コンテストの一人反省会と次回への一人作戦会議も絶賛開催中。

そう、どうやら 30 年かけて、やっと「みんなちがってみんないい」を無線の世界で理解、実行出来るようになったのかもしれません。これからは、国内コンテストにエントリーし続けながらも、何らかの形で DX もやっていくことになると思います。グッとポピュラーになった(ように見える)サテライト通信にも興味が出てきました(その昔、オスカー6 号の

ダウンリンクを受信したのが最後です)

無線家としての(というか人としての)残り時間も、残念ながらそうたっぷりはなさそうです。サイクル26を楽しめるかはびみよ~なところ^^; しかし、「やりたいことを、やれるとこまで、やってみる」でいいのではないかなと。

去年までは「足跡残し」以下だった CQ WW CW 、今年はちょっとだけ本気で臨んでみようと思いつつ、その一週前に参戦予定の多摩川コンテストの準備をそそくさと始めているワタクシです。